

|              |   |
|--------------|---|
| Title        | 大学等における研究関連求人の推移  |
| Author(s)    | 川島, 浩誉; 山下, 泰弘; 川井, 千香子   |
| Citation     | 年次学術大会講演要旨集, 31: 136-139  |
| Issue Date   | 2016-11-05  |
| Type         | Conference Paper  |
| Text version | publisher   |
| URL          | <a href="http://hdl.handle.net/10119/13852">http://hdl.handle.net/10119/13852</a>   |
| Rights       | 本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management. |
| Description  | 一般講演要旨  |

## 大学等における研究関連求人の推移

○川島浩誉 (NISTEP) , 山下泰弘, 川井千香子 (JST)

科学技術・学術政策研究所(NISTEP)と科学技術振興機構(JST)との共同による、JREC-IN Portal 掲載の求人票に基づく研究関連求人の分析プロジェクトに関して発表する。

研究人材は研究活動の実施主体の最小単位であり、研究機関や国などは、言わばその積み上げによって構成される二次的な主体である。したがって、適切な研究人材を適時適切に配置ないし育成するために、人材需要の動的変化を把握することは、国・研究機関における知識生産やイノベーションを活性化する上で重要な課題の一つである。しかしながら、研究人材、特にその就業や組織間移動は、計量書誌学において扱われる情報やツールのみでは把握しにくく、分析に貢献するデータの入手可能性も低かった。求職の主体である「人材」の側から見ると、研究者あるいは研究関連実務者は研究関連の求人市場に身を置き、求職者としての活動によって自らのキャリアを形成していく。一方、当該の求人の主体である大学等の学術研究機関側は、現在の日本においては求人市場が主として公募制度のもとにあることから、求人情報を公開することにより応募を発生させる。

本研究では、求人主体が求人情報すなわち求人票を掲載するメディアである JREC-IN Portal に着目し、近年の大学等における研究関連求人の推移を明らかにすることを試みた。

JREC-IN Portal は JST が提供しているキャリア支援サービスである。公的機関が運営するサービスであることから、公募を行う際の掲載メディアとしてはデファクトスタンダードであり、大学や公的機関等による求人の発生や求める人材像を記した求人票データがサービスの運用に伴ってほぼ網羅的に蓄積される。JREC-IN Portal (2014年9月以前はJREC-IN) を求人動向のデータソースとして用いた先行研究としては、三浦(2007)を始め、わずかに論文や紀要が存在しているが、それらの研究は扱ったデータの取得期間がいずれも1年以下のため、その時点でのスナップショットを得ることはできても、時系列的な変化を追うことができず、従って、科学技術基本計画に代表される政策的な影響についての考察や示唆を得ることが難しい。つまり、学術関連人材の求人市場を、公開された求人情報に基づいて、複数年以上の時系列で、分析した研究は未だなされていない。本研究では、これまで総体的な分析が為されてこなかった JREC-IN Portal 掲載の求人票データに関して、その性質を明らかにし、可用性を確立するとともに、近年の研究関連人材政策の帰結として、大学等における任期の定めのある求人の比率を、時系列推移、職種別及び研究分野別の状況として示す。

図1は、JREC-IN Portal に掲載された求人票の件数の推移である。件数は時期列で単調増加しており、2015年において16000件程度の規模のデータである。なお、図1は暦年による集計である。図2では国公立大学に着目し任期の有無別に集計を行った。図3はさらに常勤職に限定し、任期の有無を比率にしたものである。図2と図3から、大学における求人は任期の定めのない求人が横ばいであるのに対し、任期の定めのある求人は増加が続いており、雇用における流動性の著しい増加を示唆する結果となった。近年(2012-2015)の大学における常勤職求人の任期有無比率を職種別で示したものが図4、研究分野別で示したものが図5である。図4からは若手研究者が就きやすい職種ほど任期の定めのある雇用の比率が大きいことが明確に表れている。図5からは人材問題で常に論点になる生物学分野が突出して任期の定めのある求人の比率が大きく、分野ごとの雇用の不安定さの違いを示す結果となっている。

本研究の試みが示すように、JREC-IN Portal は、科学技術人材およびその政策による影響に関して求人市場という視点からモニタリングするデータのソースとなり得る。本研究に関しては、記事として川島(2016)および山下(2016)を既に公開しており、さらに本発表および Kawashima and Yamashita(2016)における議論を経て、NISTEP から本年度内を目標に報告書として公表予定である。本研究への問い合わせや報告書公開後の送付を希望される方は、川島 (kwsahr@nistep.go.jp) もしくは山下 (yasuhiro.yamashita@jst.go.jp) にご連絡を頂きたい。

図1 JREC-IN Portal に掲載された求人票の件数の推移(川島 2016 より再掲)

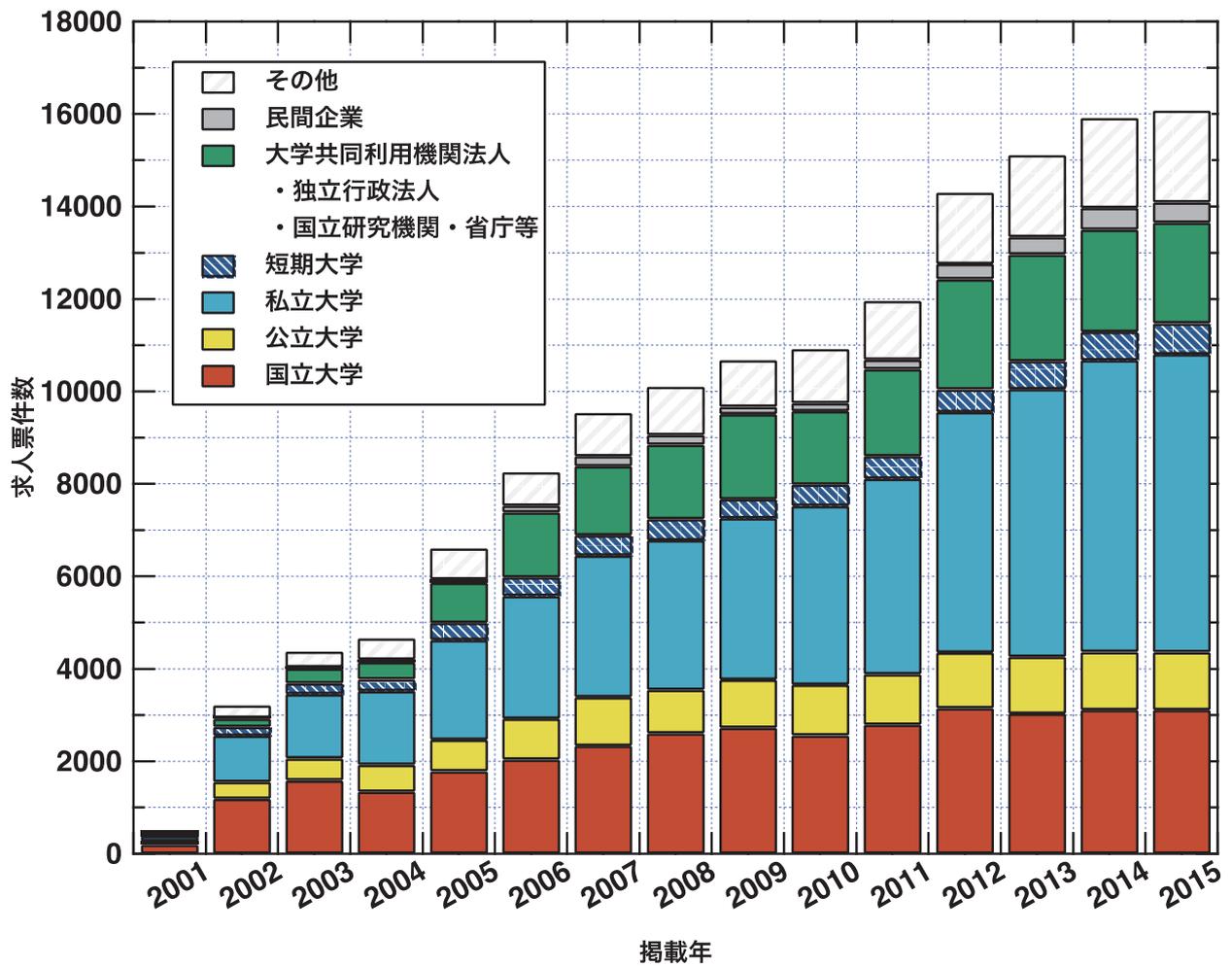


図2 国公立大学における JREC-IN Portal 掲載の求人票件数の推移(川島 2016 より再掲)

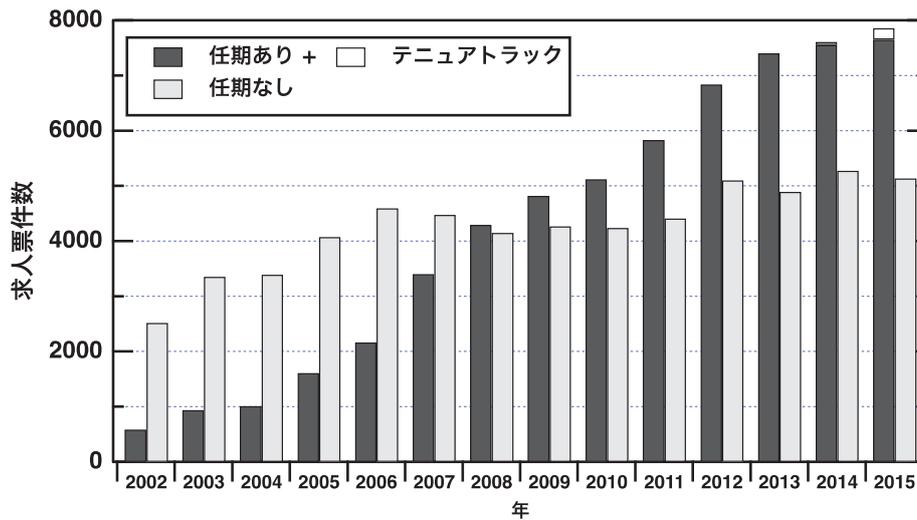


図3 2002年から2015年までの大学における常勤職求人の任期有無比率の変遷(山下 2016より再掲)

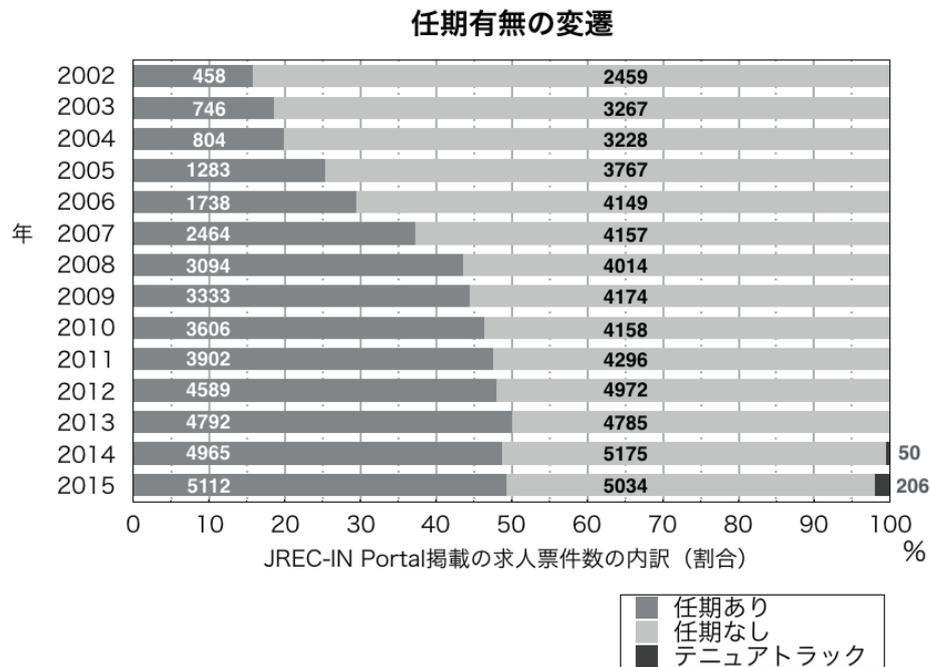


図4 近年(2012-2015)の大学における常勤職求人の任期有無比率(職種別, 山下 2016より再掲)

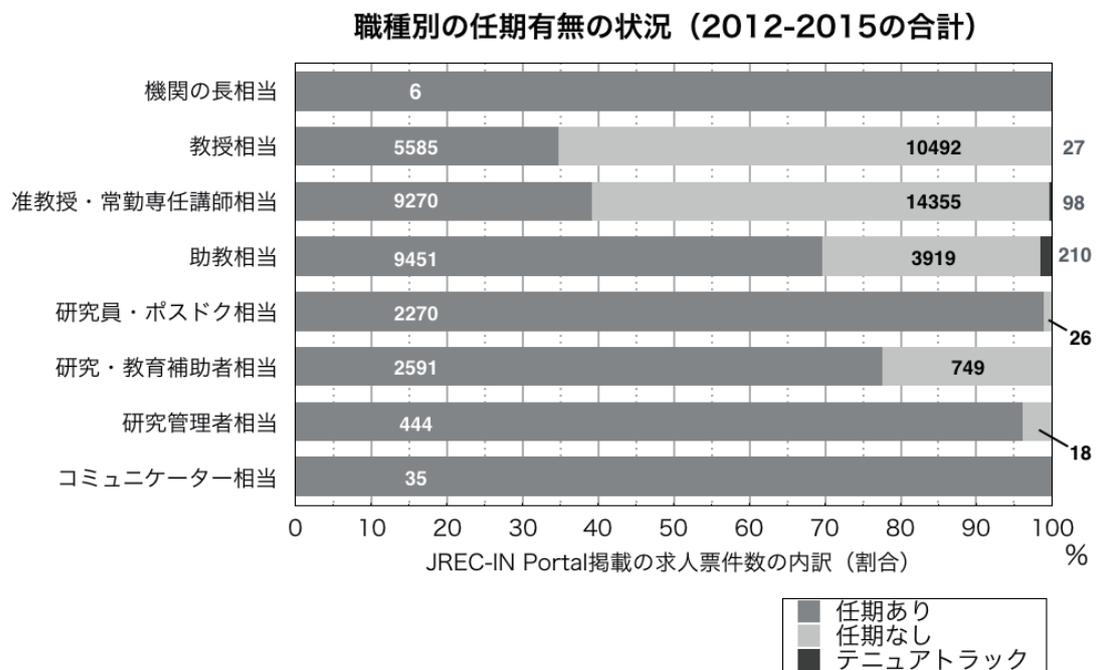
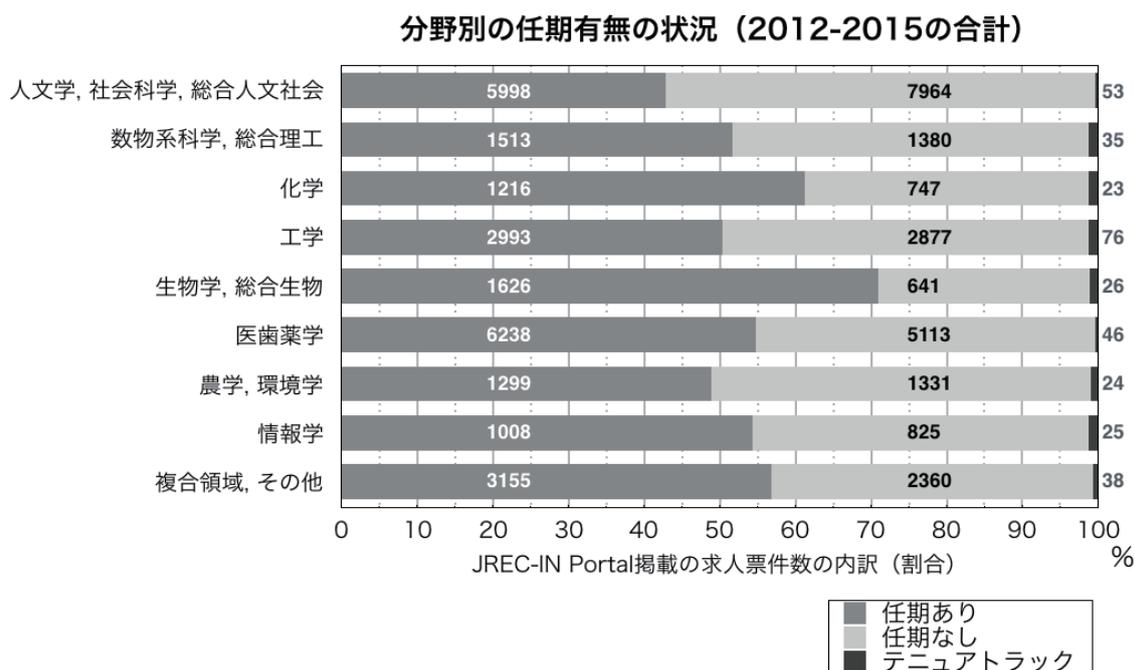


図5 近年（2012-2015）の大学における常勤職求人への任期有無比率(分野別, 山下 2016 より再掲)



## 参考文献

三浦有紀子・佐藤真輔(2007) 大学, 公的研究機関における研究者公募の現状. 文部科学省 科学技術政策研究所 調査資料-133.

山下泰弘・川島浩誉(2015) “21世紀の研究関連求人市場の俯瞰”. 研究・技術計画学会第30回年次学術大会講演要旨集. 2015-10-10/11, 研究・技術計画学会, 2015. p. 844-848.

川島浩誉・山下泰弘・川井千香子(2016) 大学における研究関連求人の推移 JREC-IN Portal 掲載の求人票に基づく分析, 情報管理, vol. 59, no. 6, p. 384-392.

山下泰弘・川島浩誉・川井千香子(2016) JREC-IN Portal 掲載の求人票に基づく研究関連求人の分析 - NISTEP-JST 共同プロジェクト-, STI Horizon, vol. 2, no. 3, p. 60-63.

Kawashima, H. and Yamashita, Y. (2016) Progress on mobility and instability of research personnel in Japan: scientometrics on a job-posting database for monitoring the academic job market, 21st International Conference on Science and Technology Indicators. 2016-09-14/16, Valencia, Spain.